

全拉致被害者の即時一括帰国 を求める国民大集会

拉致被害者は50年近く北朝鮮で抑留され続けています。なぜ、まだ助けられないのか。怒りで一杯になります。

岸田文雄総理は昨年10月23日の国民大集会での挨拶で「拉致被害者御家族も御高齢となる中で、拉致問題は時間的制約のある人権問題」と話されました。これは日本政府を代表しての初めての発言です。また昨年12月に閣議決定された「国家安保戦略」でも「拉致問題については、時間的な制約のある深刻な人道問題であり、この問題の解決なくして北朝鮮との国交正常化はあり得ない」と明記されました。拉致問題と核・ミサイル問題を事実上切り離して被害者救出優先を打ち出したのです。

それを受けて、家族会・救う会は2月26日「親の世代の家族が存命のうちに全拉致被害者の一括帰国が実現するなら、我が国が北朝鮮に人道支援を行うことに反対しない」という新運動方針を決めました。被害者である家族会が支援を公然と語るということは言いようもないほど重い決断です。

人道支援は国連制裁違反ではありません。従って、核・ミサイル問題解決前にも実行できます。その条件は喫緊の人道問題である「全拉致被害者の即時一括帰国実現」です。親の世代の家族が存命のうちに全拉致被害者の即時一括帰国が実現するなら私たちは北朝鮮への人道支援に反対しません。様々な人道問題を一括して解決しようではないかと提案したのです。

5月27日に、私たちは「全拉致被害者の即時一括帰国を求める国民大集会」を開催します。

今こそ皆で声を上げ、親の世代が被害者と抱き合うことなしには日本の怒りは解けず、支援はあり得ないことを、北朝鮮の最高指導者に伝えましょう。救出のシンボルであるブルーリボンバッジをつけて、ぜひ、みなさん国民大集会にお集まりください。

令和5年 5月27日(土)

午後2時～4時 シェーンバッハ・サポー



と き 令和5年5月27日(土) 午後2時から4時まで

開 場 午後1時(先着順)

と ころ 砂防会館別館1階、シェーンバッハ・サポー

東京都千代田区平河町2-7-4 TEL:03-3261-8386 地下鉄永田町駅

(有楽町線・半蔵門線・南北線) 4番出口徒歩1分 5番出口(都道府県会館前)はエレベーターあり

赤坂見附駅(銀座線・丸ノ内線)が永田町駅に接続

登壇者 櫻井よしこ(司会)、岸田文雄総理大臣(要請中)、

松野博一官房長官・拉致問題担当大臣(要請中)、

家族会・救う会代表、拉致議連代表、知事の会代表、地方議連代表、

各党代表、特定失踪者家族会代表

参加費 無料(会場カンパ歓迎)

横田拓也代表、第122回東京連続集会(3/31)での挨拶

今回の新運動方針と金正恩委員長向けのメッセージは、これまでの内容から一点大きく内容を変えたものとなりました。これまでは「全拉致被害者を一括帰国させれば、日朝国交正常化の妨げはしない」としていた内容を、今回は、「全拉致被害者を親世代が健在・存命の内の一括帰国させれば、北朝鮮への人道支援には反対しない」というものに変えました。

「被害者側が譲歩し、加害者側に人道支援など口にすべきではないのではないか」等の意見は正に正論だと思います。一方、家族会の親世代は母早紀江が、亡くなった父滋と同じ年齢となる87歳になりましたし、最近では体調を崩した事もあり、一刻の猶予もないのが実情です。有本のお父さん(94)も一上京の際は車いすでの移動となり、年齢の現実を感じざるを得ない状況です。

離れ離れとなったわが子や親・兄弟とどうしても会いたい、という強い気持ちを最優先に考え、北朝鮮が今一番欲している人道支援(食糧支援・医療支援)を全拉致被害者の即時一括帰国と引き換えに提示することで、対話局面を進めるべきと考えました。

間違っしてほしいのは、家族会・救う会は北朝鮮への制裁の手を緩めてよいとは一言も言っておらず、また北朝鮮への人道支援は、過去の負の歴史のような一方通行の米支援のようなものではなく、「全拉致被害者の即時一括帰国」が前提条件であることです。

北朝鮮国内の食糧事情は想像を絶するほどの厳しい状況にあり、餓死者が出ていると言われています。一方で、ミサイル発射を繰り返し、北朝鮮国民はもちろん拉致被害者たちの生活水準、尊厳、人権は蹂躪されたままの状況です。拉致問題と核・ミサイル問題は表裏一体の問題です。このような非道を許してよい訳がありません。

金正恩委員長は窓の外を眺めてみて下さい。人々の生き地獄とも言える苦しい毎日をその目で見て下さい。一国のリーダーがこのような人権侵害を先導している事を国際社会が許すことは無いと理解して下さい。

そして、家族会・救う会の運動方針である、「全拉致被害者が親世代が存命の内の一括帰国すれば北朝鮮への人道支援には反対しない」という意味を真正面から受け止めて下さい。

このタイミングを逃し、親世代が仮にも他界した後に拉致被害者が帰国したとしても真の解決にはならないことを理解してほしいと思います。万が一そのような不幸な事が起きれば、北朝鮮への人道支援はおろか、日朝国交正常化交渉へ私たちは強く反対する立場に回ることを申し上げておきます。そして強い怒りの感情を立ち上げ、日本世論は北朝鮮に対し2002年の時と同じかそれ以上に硬化することを覚悟して理解してほしいと思います。

金正恩委員長の勇気ある英断に期待します。全拉致被害者の即時一括帰国を果たせば、日朝両国が明るい平和な未来を描けることを理解して下さい。皆様お一人お一人の力強いご支援とご理解を頂けますよう宜しくお願い致します。そして最後に、日本政府の全力の解決に向けた行動を望みます(拍手)。

岸田首相に全拉致被害者の即時一括帰国の実現を求める、はがき・メールを!

〒100-8968 千代田区永田町2-3-1内閣総理大臣 岸田文雄殿
首相官邸のホームページ=<http://www.kantei.go.jp/>の「ご意見募集」利用

主 催	北朝鮮による拉致被害者家族連絡会(代表 横田拓也) 北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会(会長 西岡 力) 北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出するために行動する議員連盟(会長 古屋圭司) 北朝鮮による拉致被害者を救出する知事の会(会長 黒岩祐治) 拉致問題地方議会全国協議会(会長 松田良昭)	5/27 国民大集会
事務局	救う会 〒112-0013東京都文京区音羽1-17-11-905 電話03-3946-5780 FAX03-3946-5784 担当=平田隆太郎 info@sukuukai.jp http://www.sukuukai.jp (署名用紙・ちらしのダウンロード可)	
募金先	郵便振替口座00100-4-14701「救う会」/ゆうちょ銀行 店名019 当座 0014701 みずほ銀行池袋支店(普)5620780 救う会 事務局長 平田 隆太郎(ヒヲリウウウ)	